



2024 年度

11月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

日ごとに朝晩の冷え込みが厳しくなり、秋も深まっています。秋といえば、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋…など様々な秋が思い浮かびます。みなさんはどんな秋を楽しむのでしょうか。

色も形も大きさも、一つひとつ違う木々の葉や木の実を見ていると、改めて神さまの作った自然の美しさを感じます。「みんな違う」…これは私たち人間にも神さまが与えてくれた宝物ですね。神さまが作ってくださった季節を感じながら「面白い、不思議だな、楽しそう、何だろう」と好奇心をかき立てられる、ワクワクするような事をたくさん子どもたちと共有したいと思います。

○神さまがくださった恵みを礼拝や日々の生活の中で感謝する

○友だちと遊ぶ中で思うようにならないことや自分とは違う思いがあることを経験する。

また、相手を思っている行動をしようとする。

(キリスト教保育 11月のねがい)

「子どもにとっての安心基地」

ボウルビィという英国の児童精神科医が子どもの育ちにおいて、アタッチメントが大切だということを提唱しました。子どもはただ食べたり飲んだりして十分に栄養をとり、衛生的にも問題にないところで温かい毛布で眠ることが出来れば、それでちゃんと育つかという決してそうではない。怖かったり不安を感じた時に、特定の誰かにしっかりとくっつけるというアタッチメントが安定して経験できないと、心身の健康な発達には保証されないということをボウルビィは訴え、親や保育者などの大人は、小さな子どもにとっての「安心基地」としてあるべきだと言いました。ここで大切なのは「安心基地」は基本的にはどっしりと構えて、あまり動かないものだということです。つまり、大人のこどもに対する関わり方としては「いつも子どもの後を心配してついてまわったり、先回りして子どもが嫌な思いをしなくて済むようにしてあげるのではなく、子どもが恐れや不安などのシグナルを送ってきた時に、しっかりと応えてあげること。そして、それ以外ではできるだけ子どもの領域に踏み込むようなことはしないということ」です。つらいことや、驚いたこと、疲れたり、痛い思いをしたり、自分の思い通りにならなかつたりして恐れや不安などマイナスの感情が生じた時、この安心基地で受け止めてもらい、また安心感を取り戻し、次の冒険へと進んでいけます。言葉にすると簡単なように聞こえますが、実際には難しいことです。親の心理としては我が子が転ばないように、嫌な思いをしないようにとついつい先回りしたくなるものですから。(私自身の子育てを振り返っても反省です…) 子どもより先を歩き、つまずきそうな石ころを取り除くのではなく、子どもたちが自ら育とうとする力を信じて、転んでも子ども自身が自分の力で立ち上がれるよう、おらかな気持ちで見守っていきたいものです。むしろ大人側のトレーニングかもしれませんね。

今月は感謝祭礼拝と豚汁大会があります。私たちがいただいている豊かな恵みに感謝するとともに、世界に苦しんでいる人がいないようにと皆でお祈りしたいと思います。

てんのかみさま

お魚のフライもリンゴゼリーもトマトサラダもごはんも

みんなで食べると みんなうれしい どれもおいしい

かみさま ありがとうございます みなによって アーメン

